

雲南市の「地域自主組織」と 地域円卓会議

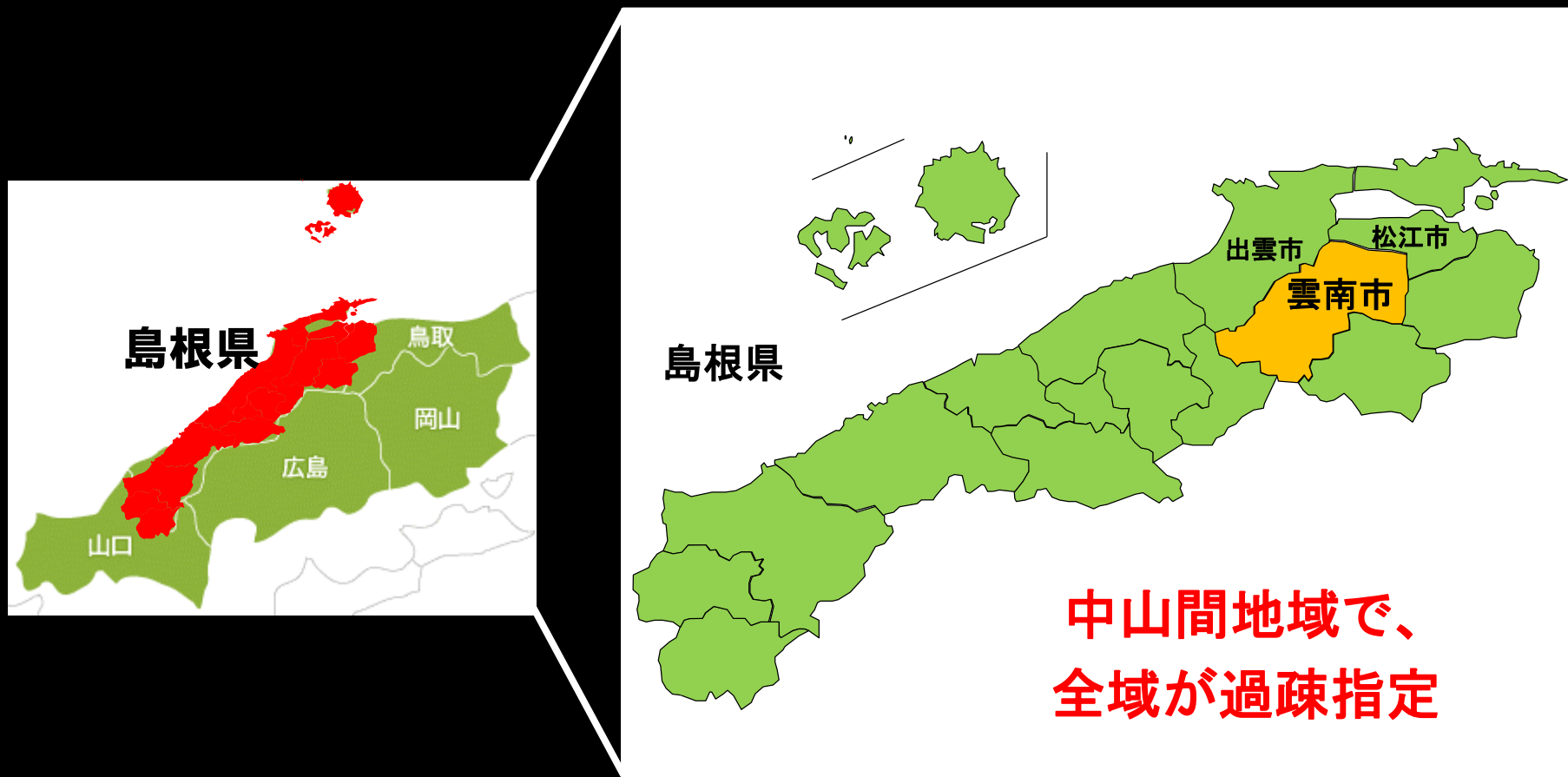
～参画と協働による自治を目指して～

2014年2月20日
地域円卓会議フォーラム2014

島根県 雲南市
(政策企画部地域振興課)

雲南市の概要

- 平成16年11月1日、6町村で合併し、「雲南市」誕生。



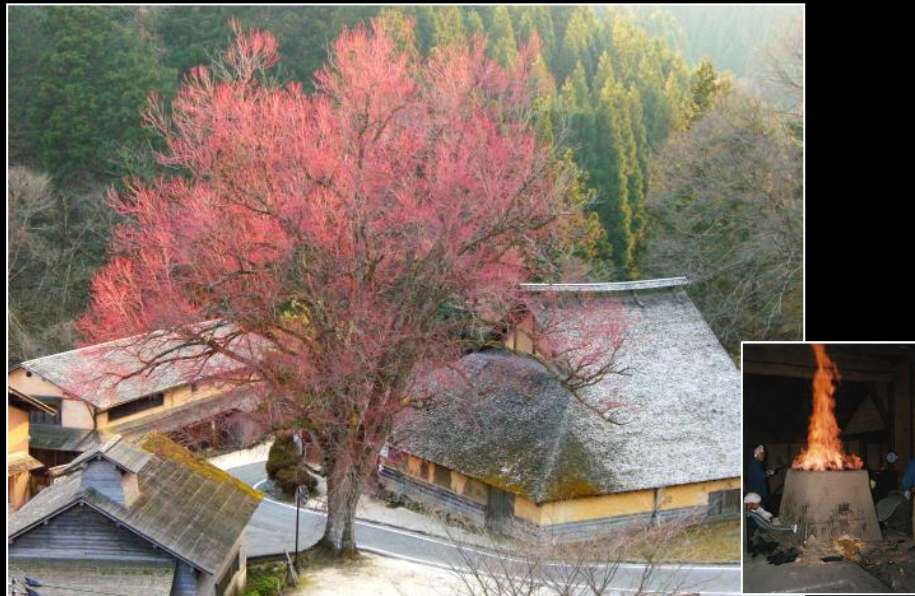
■ 面積	553.4km ²	(東京23区の約9割)
■ 人口	41,927人	(平成22年国勢調査)



全国最多の39個の銅鐸が出土
(加茂岩倉遺跡・銅鐸は国宝)



【日本さくら名所】斐伊川堤防桜並木



たたら製鉄の遺構；全国唯一の現存する高殿
(菅谷たたら高殿)



スサノオノミコト、クシイナダヒメが造ったとされる
「日本初之宮」須我神社・和歌発祥の地

雲南市のまちづくりの基本姿勢

～協働のまちづくり～

雲南市まちづくり基本条例(平成20年11月1日施行)より

(前文 抜粋)

～中略～

「まちづくりの原点は、主役である市民が、自らの責任により、主体的に関わること」です。

ここに、市民、議会及び行政がともにこの理念を共有し、協働のまちづくりをすすめるため、雲南市まちづくり基本条例を制定します。」

(目的)

第1条 この条例は、雲南市におけるまちづくりの基本理念を明らかにするとともに、その基本となる事項を定め、協働のまちづくりをすすめることを目的とします。

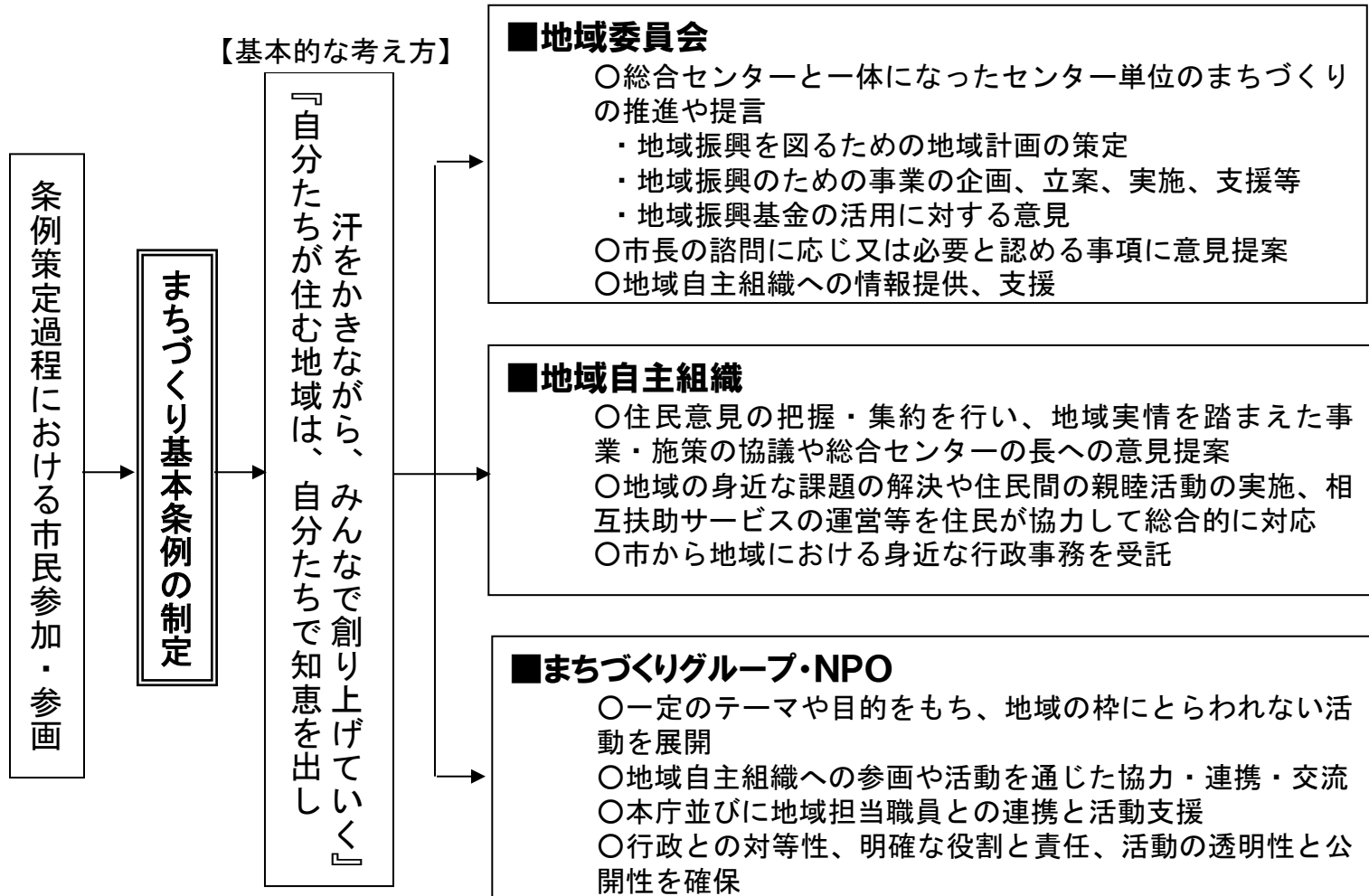
つまり、 雲南市のまちづくりの基本 = 「協働のまちづくり」

そのためには、⇒ 市民が主体的に関わる必要がある。

市民が主体的に関わる = 「住民自治」

雲南市発足時

(合併協議会コミュニティ・住民自治PT報告書より)



地域自主組織の設立経緯

H20 まちづくり基本条例施行

H19 総合計画策定

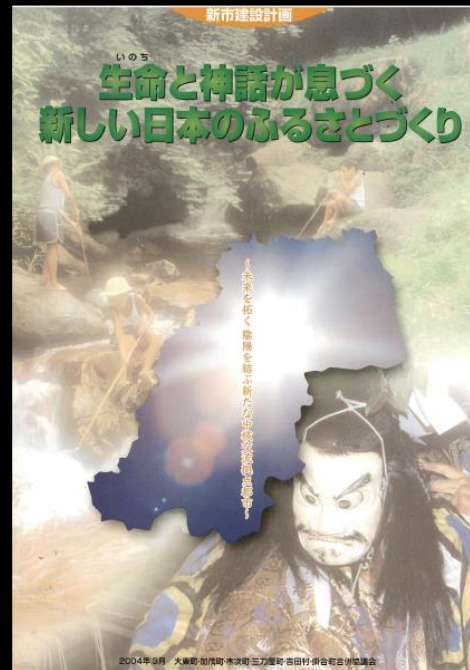
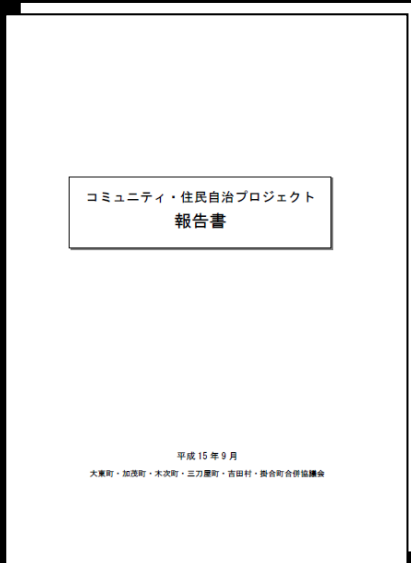
H17
~ H19

地域自主組織
設立

地域自主組織を位置付け

H16

H15



H16.11
雲南市発足

新市建設計画

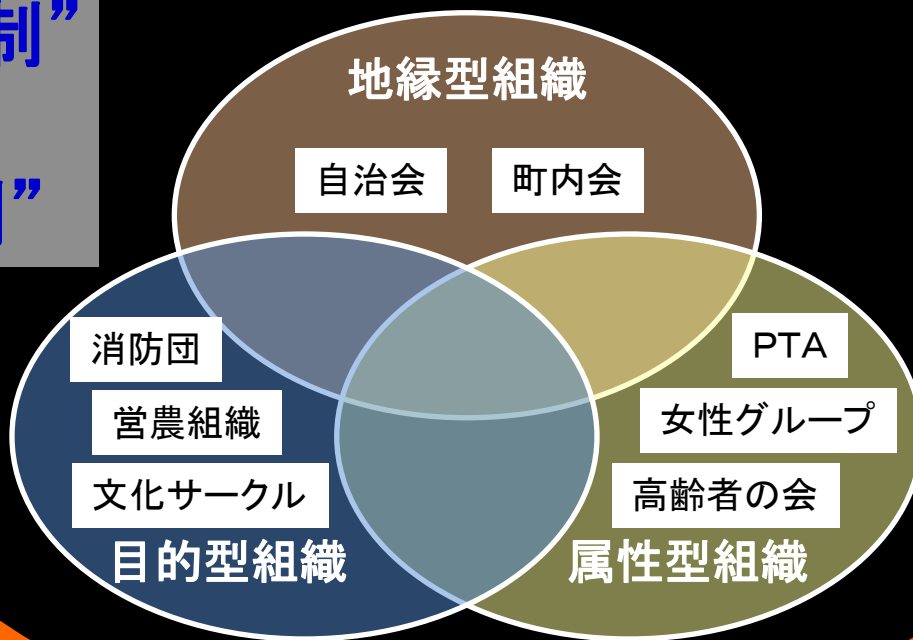
コミュニティ・住民自治プロジェクト報告書

“ピンチ” を “チャンス” へ 「地域崩壊の危機」を「住みよい地域づくり」へ

～新たな地縁モデルの結成～

概ね小学校区域で
広域的な地縁組織に再編

“1世帯1票制”
ではなく
“1人1票制”



地域自主組織

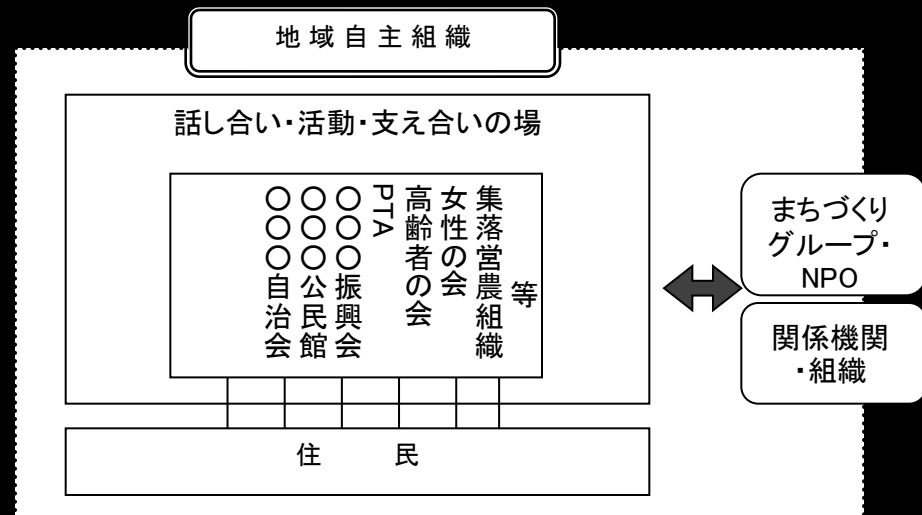
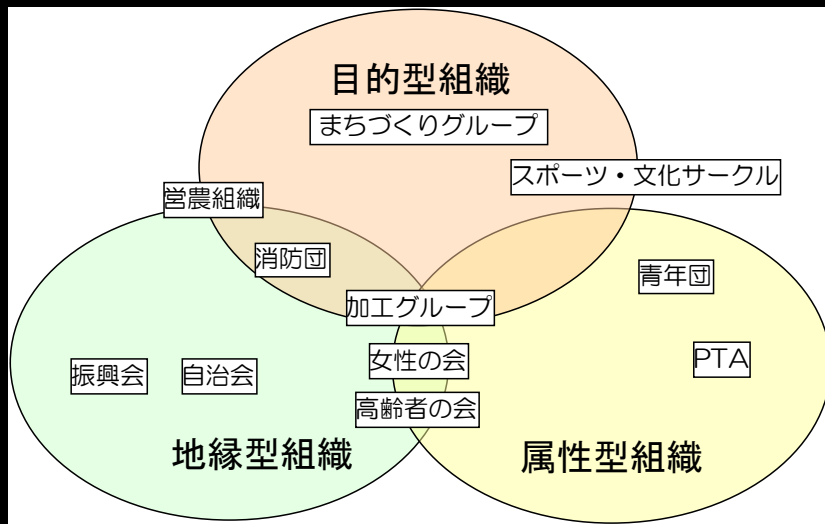
=小規模多機能自治

地域自主組織とは？

地域自主組織
の目的

対象) 地縁による様々な人、組織、団体
 意図) 地域課題を自ら解決する。
 活動) 長所を活かし、補完し合う。
 ⇒結果) 地域が振興・発展する。

＝小規模多機能自治



年代や性別、活動が異なる様々な組織や団体が地縁でつながり、連携を深めることにより、それぞれの長所を活かし、補完し合うことで、地域課題を自ら解決し、自地域の振興発展を図る。

1 + 1 > 2

地域自主組織(一覽)

■面積規模

0.85~73km²程度
(平均約18.66km²)

■人口密度

10~925人/km²程度
(平均193人/km²)



■人口規模

200人~4000人程度
(平均約1300人)

■世帯数

70~1200世帯程度
(平均約400世帯)

※組織見直し中の加茂町を除いてカウント

新しい公共の創出

小規模多機能自治の進展

その結果

〔住民票の発行などの窓口サービス、行政文書の取次ぎ、
市民バス回数券の販売ができないか など〕

「...やってくれない」

から

「...やらしてくれない」

と変化した地域が増加。

“開かれた公共”へ

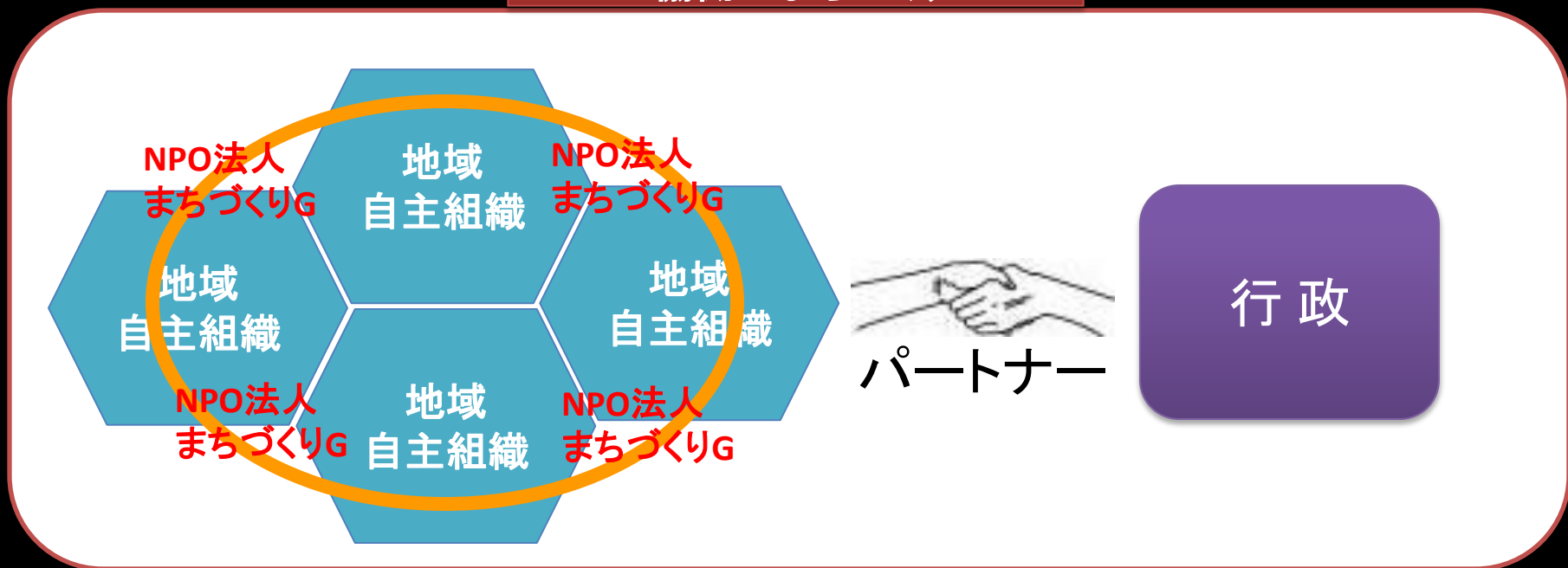
市民と行政が 垂直的関係から水平関係に (統制的) (協働)

概念図

まちづくりの
基本理念
(共通の目標)

生命と神話が息づく 新しい日本のふるさとづくり

協働のまちづくり



- 住民自治の中核 = 地域自主組織
- NPO法人・まちづくりG = 自治を補完

意識改革
(市民はまちづくりのパートナー)

地域委員会の発展的解消

地域委員会とは... 地域委員会条例より

※2013年3月末条例廃止

(趣旨)

第1条 市長は、雲南市の自治の推進を図るため、合併前の大東町、加茂町、木次町、三刀屋町、吉田村及び掛合町の区域ごとに、**総合センターと一体になった旧町村単位のまちづくりの推進や提言を行う**地域委員会を置くこととし、この条例にその組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(基本原則)

第3条 市長は、地域委員会の意見を尊重しなければならない。

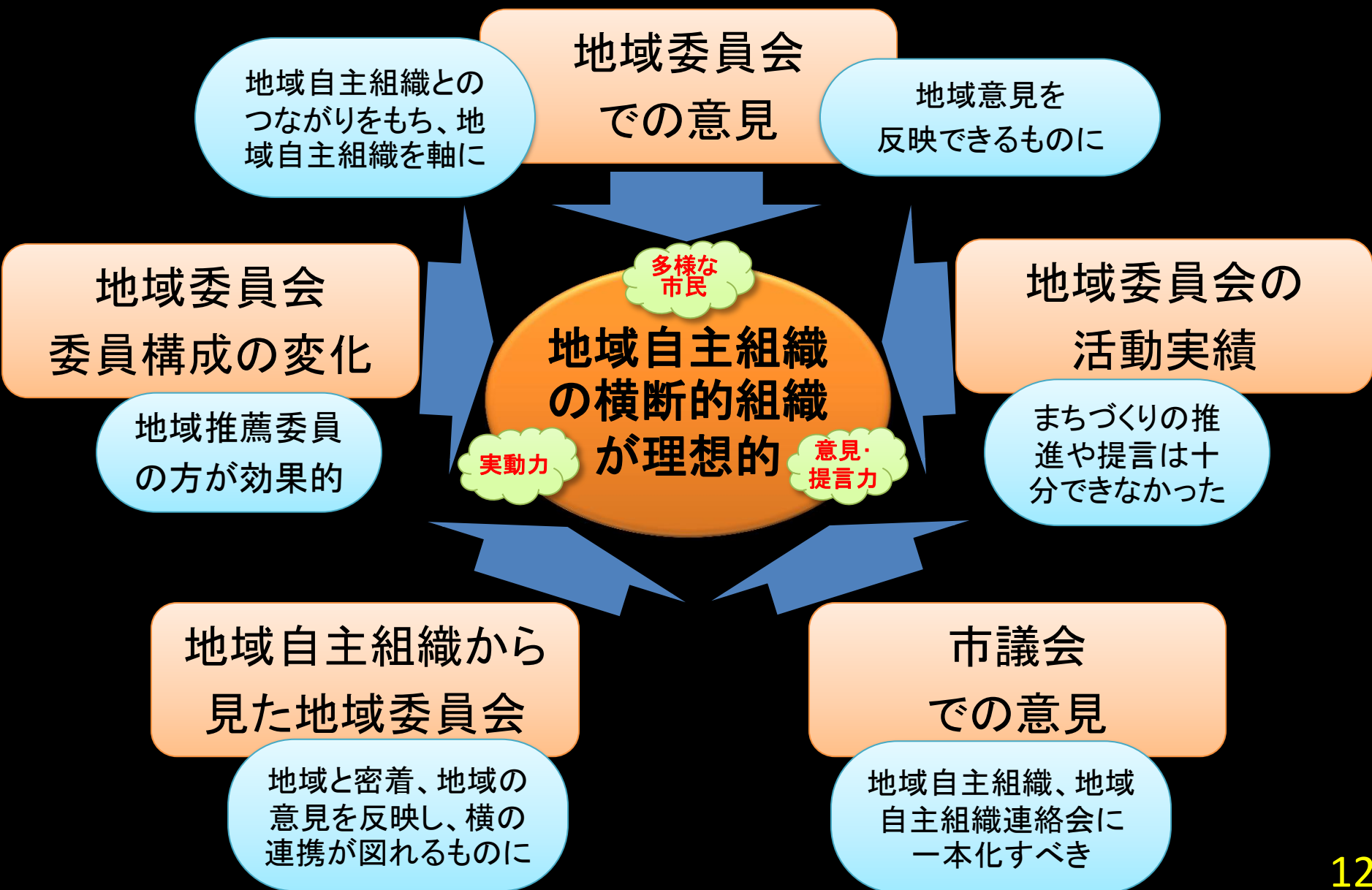
2 地域委員会は、当該区域の住民から寄せられた意見等を尊重しなければならない。

(所掌事務)

第4条 地域委員会等の所掌事務は、当該区域に係る次に掲げる事項とする。

- (1) **地域振興を図るための地域計画の策定**
- (2) **地域振興のための事業の企画、立案、実施、支援等**
- (3) **地域振興基金の活用に対する意見**
- (4) **地域自主組織等の育成支援に関する事項**
- (5) **市長の諮問に対する答申**
- (6) **その他市長が必要と認める事項**

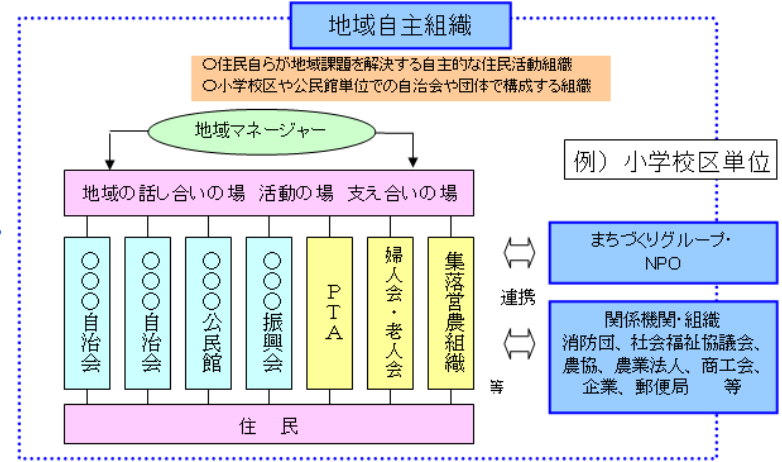
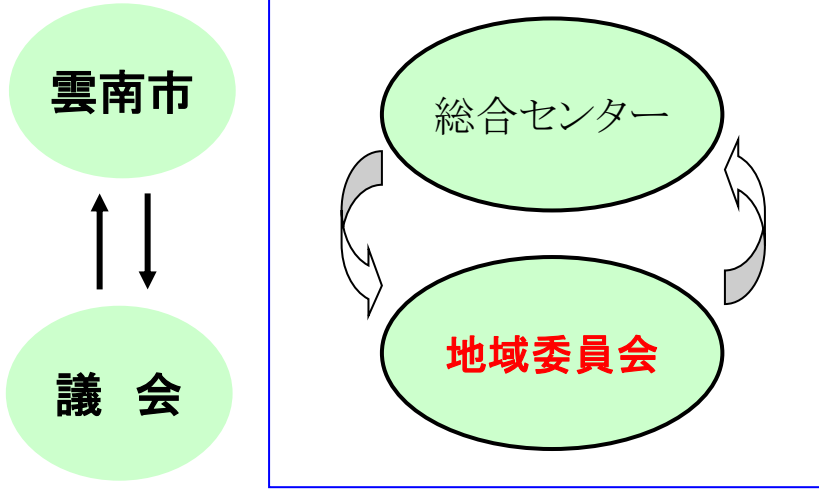
地域委員会の検証結果(2012年)



地域委員会を発展的に解消

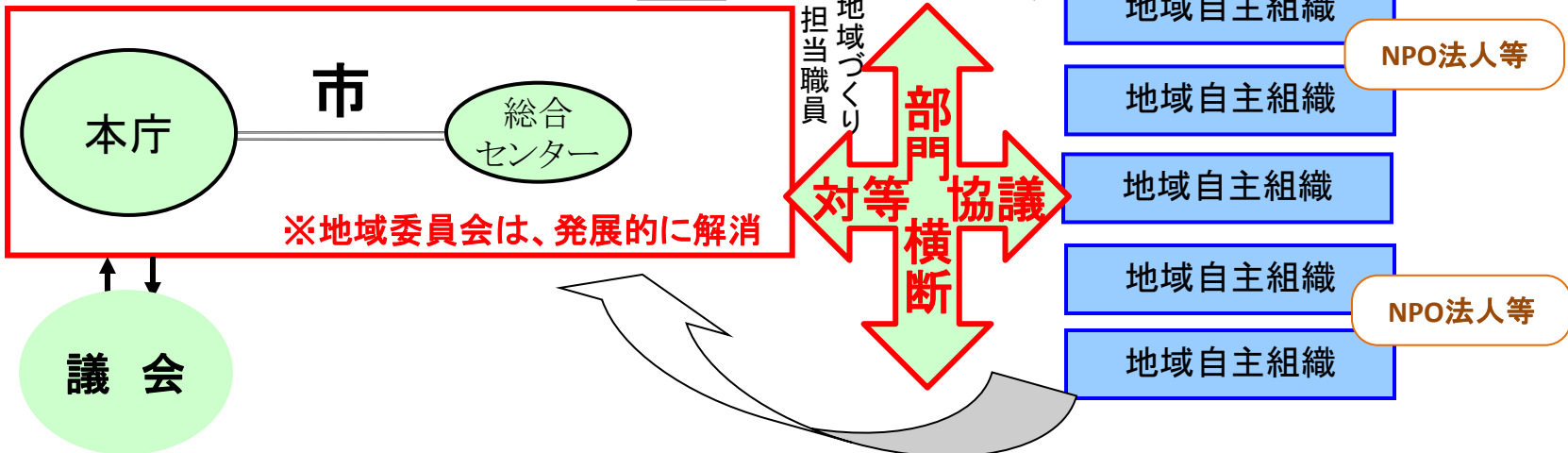
町単位

以前



2013~

※町単位のみにとられない

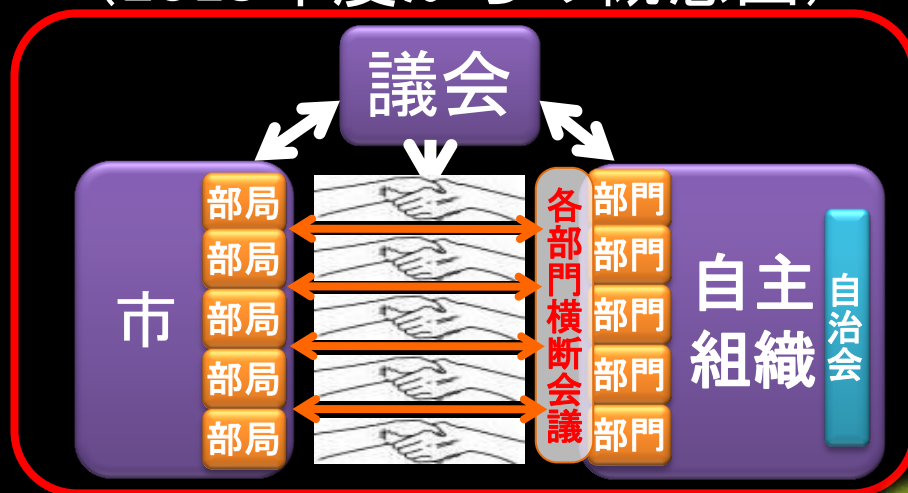


地域と行政の協議の場

■2013年度から、「地域円卓会議」を本格導入

※地域と「直接的に・横断的に・分野別で」協議

(2013年度からの概念図)



具体的方法

円卓会議方式



『円卓会議方式』とは...

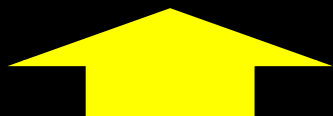
(基本的事項)

- フラット制(それぞれが対等な立場で参加)
- 直接対話方式により、共有、協議、協働を促進する場
- 主役はテーマ(共通のテーマを議論)
- 横の情報交換の場としても活用
- 分野別円卓会議も設ける
- 原則として公開し、透明性の確保と多様な参画を目指す。
- 話し合いやすい規模で構成。
- 「組織」ではなく、「会議」。...地域課題の解決を目指す場
- 基本的には、会議ルールもこの場で確認し、決定。

(変遷 概念図)

時間軸

現在



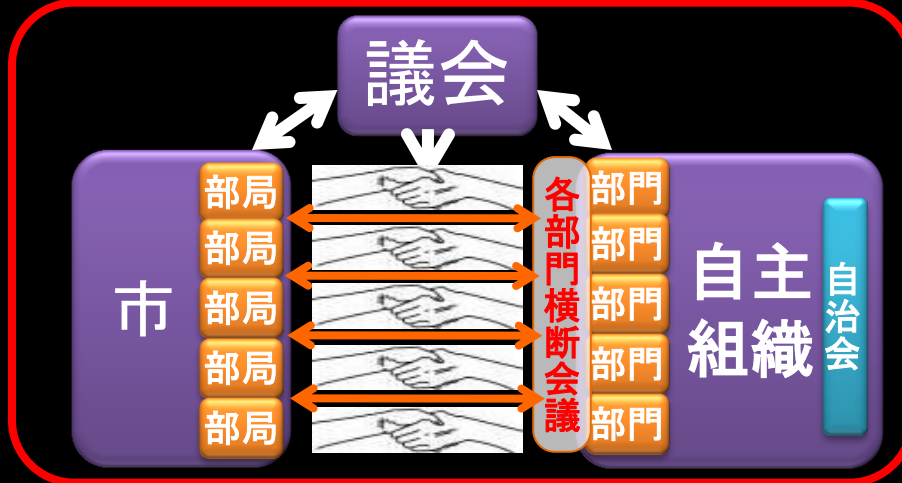
H24まで



合併時

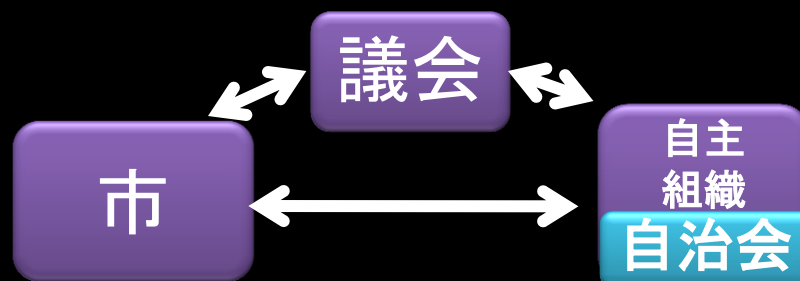
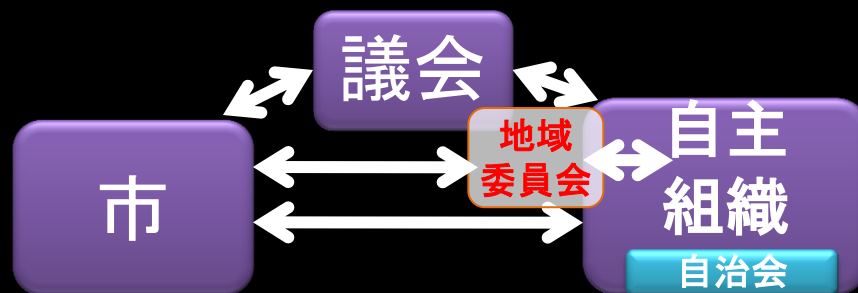


合併前



2013年度～

- 地域委員会を発展的に解消。
- 地域自主組織に係る制度改正。
- 地域円卓会議を本格導入。



『円卓会議方式』実施状況 ～規模別～



地域円卓会議に対する地域側からの反応

【各地域からの主な意見】

- ・お互いの顔が見えて良い。
- ・他地域の様子がわかって良い。
- ・地域の中で円卓方式ができるようになりたい。
- ・今まで町内ばかりで集まっていたが、色々な情報が入ってよかった。
- ・一方的ではなく、今回のようにお互いに会話ができるスタイルは非常にいい。
- ・テーマに基づく会議スタイルは良い。
- ・意見交換できてよかった。
- ・今回のような形態はいい。意見も出しやすい。

■効果を実感する点

- ①一方通行になりにくい。
...“地域・・・VS 行政”ではなく、“地域・・・& 行政”
→前向きな意見が出やすい。
→意見を“交わす”ことで理解を深めることができる。



- ②課題を共有した上で、そのためにはどうすればいいか？
をともに考えることができる。

■効果を実感する点

①一方通行になりにくい。

...“地域・・・VS 行政”ではなく、“地域・・・&行政”

→前向きな意見が出やすい。

→意見を“交わす”ことで理解を深めることができる。

例えば...



地域のAさん)社会教育コーディネーターは、中学校配置ではなく、地域(交流C)へ配属した方がいいのでは？

※社会教育CNは、市教育委員会の職員が中学校に常駐し、社会教育推進の立場から学社融合を推進。

教育長)学校の先生に社会へ目を向けてもらうためには、やはり学校配置が必要。

他地域のBさん)学校の先生は地元の人がないので、やはり学校配置がいい。

他地域のCさん)子どもとの関りを深め、子どもの様子を観察するには、学校配置がいいと思う。

→地域のAさん)私も原則的には学校配置がいいと思っているが、柔軟に対応できないかと思ったので意見した。

※よくありがちなのは、ある意見が多数から一方的に攻撃され、虚しさだけが残るパターン。

今回は、意見が集中攻撃になることなく、様々な立場からの意見を聞き、違った視点も認識され、スタンスを修正された。(円卓会議の効果)

■効果を実感する点

②課題を共有した上で、どうすればいいか？
をともに考えることができる。

例えば...



地域のAさん)小学生は地域とのつながりが強いが、中学生になるとつながりが少なくなる。教育コーディネーターももっと地域に関する必要があるのでは？

他地域のBさん)うちも同じ。

他地域のCさん)うちも同じ。

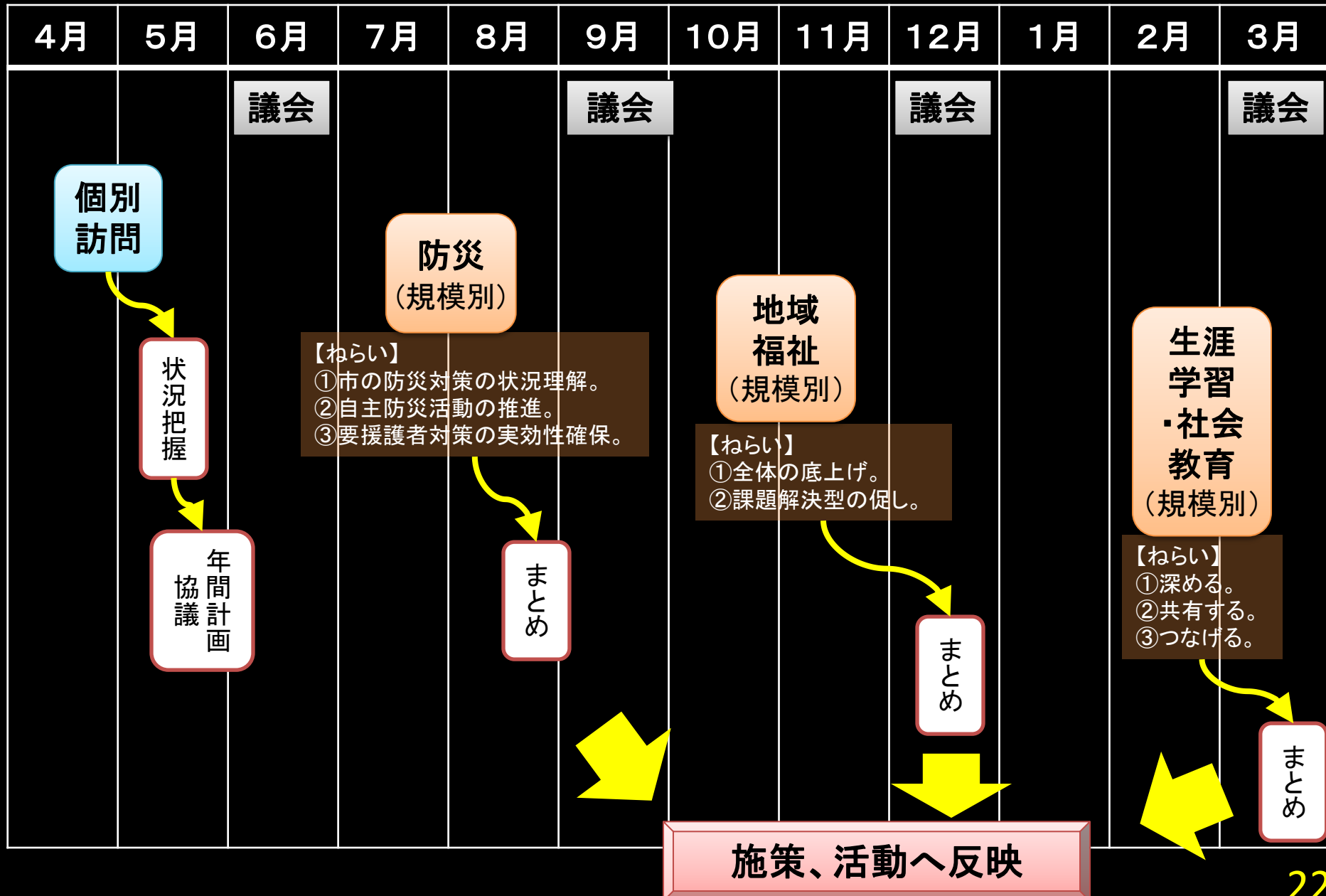
他地域のDさん)コーディネーターサイド(=行政サイド)からのアプローチを期待するだけでなく、地域からのアプローチも必要ではないか。また、中学生は部活動などで忙しいが、地域から積極的に中学生と対話の機会をもつことも必要だと思う。

※地域同士の対話の中から、行政ばかりでなく、地域の積極的な姿勢も必要、という結果的に協働を促す前向きな意見を引き出すことができた。(行政ではなく、“地域からの発言”が重要)

これまでの円卓会議で感じたこと

- 「配置」は、想像以上に重要。
 - ...口形ではなく、○形の配置により、お互いに顔・表情がわかる。
 - 意見が出やすくなる。
- 人数は多すぎない方がいい。
 - ...(感覚的には)20人前後まで。
 - ...同じ組織・団体の場合、超える人数は後列へ。
- 長くならないよう途中で区切る。
 - ...区切ることで、論点を明確にして意見を交わすことができる。
- 事前に資料配布し、組織から適した人に出席してもらう方がよい。
- 進行役は、展開をある程度見通しておく方が効果的。
 - ...論点がズレないように誘導が必要。

2013年度 地域円卓会議 年間スケジュール



(ブランドメッセージ)

幸運なんです。 雲南です。

わたしたちの雲南市には
実にさまざまな幸があふれています。

美しい日本の原風景、自然の幸。

神話に彩られた史跡や文化遺産...歴史の幸。

毎日が新鮮、たわわな食の幸。

そして親（ちか）しく交わされる笑顔、人の幸。

変化が求められる時代に、

これだけの幸に恵まれた幸運に感謝して

このまちに生まれ、育ち、暮らすことに誇りを持ちたい。

幸運なんです。雲南です。